

6話

見えなくてもみんな友達

～また会おう！～

あれから私達は旭町富士でいろんな遊びをして気がついたらもう解散時間になってしまった。

「朝日オネエちゃん！もう5時だよ！」

「え！レンちゃんまなちゃん今何時……あれ」

「2人共どこ行ったんだろう？」

「ねえそこの君！」「なあに？」

私は近くにいた男の子に話しかけた。

「6年生くらいのお姉ちゃんたち知らない？」

「え！何言ってるの？ここには朝日ちゃんと1. 2. 3年生しかいないよ！」「えっ！」

2人のこと私にしか見えないってこと？

私はそのことにもびっくりしたけど何より、もう時間ということが凄くショックだった。

あ～あ、もっと遊びたかったな……」



「朝日ちゃん！おまたせ！」

「レンちゃんマナちゃん！」「あなた達は一体何者なの！」

「……」二人はアイコンタクトを交わしてその後私にゆっくり話した。

「私達は今から5年前旭町小学校に通っていたんだけど中学一年生になる時一緒に遊んでいたら交通事故にあってしまったの。そのまま帰らぬ人になっちゃって、5年後貴方が困っていたから気になって話しかけちゃった。」

「そうだったんだ。だから私以外の人は見えなかったのね」

